

第2回 むつ下北私たちのまちづくりフォーラム

とりまとめ

空家・空店舗のリノベーションから始める安全安心なまちづくり
H.28.12.3. (土)

パネリスト

宮下宗一郎むつ市長

鈴木章一郎氏 (国土交通省総合政策局官民連携政策課長)

手塚貴晴氏 (建築家 東京都市大学教授)

長岡俊成氏 (曹洞宗円祥山大安寺副住職 イカす大畑カダル団代表)

古川たらこ氏 (シモフロカフェ店主)

コーディネーター

今井晴彦氏 (都市計画・まちづくり専門家 株式会社サンプランナーズ代表)

スケジュール

14:05 国土交通省官民連携政策課からのお知らせ 鈴木課長

14:15 むつ市における空家空地対策について むつ市防災政策課

14:25 基調講演「変わるもの 変わらないもの」 手塚氏

14:55 休憩

15:05 パネルディスカッション

発表

- ・国土交通省から空家対策の補助制度の紹介 (全国では820万戸の空家)
- ・むつ市の対策 (16%が空家 情報を集め、今後空家空地のデータベース化を進める)
- ・手塚氏基調講演 十日町や氷見市の案件紹介

パネルディスカッション

・市長

市における空家対策 → 危険空家をどうするか。

空家を楽しくリニューアルすることも考えていく。

空家が多い→町の中心部へ住むという新しいコンセプトを生む一つの転機かも。

・長岡氏

大畑の町おこしを4年前から取り組む。

3つのリノベ→①隙間空間リノベ（寺の事務所にまちライブラリー）

②薬研温泉カフェ（ワークショップや店長体験など）

③旧大畑駅でのフェスティバルなど

・古川氏

マグロー筋の活動紹介。

風間浦で活動 空家に廃材などで手作業でカフェづくり 下風呂温泉のにぎわいづくりをしている。

・国土交通省鈴木氏

全国の状況 空き家 820 万戸で 10%超、改善をどうするかを考えている。

危険家屋 → 空家対策特別措置法 → 空家の減少

危険家屋をどうにもしない相続者管理者→固定資産税の軽減をしないなどの措置。

活用を促進していく。どのように価値を見出すか。ゴミでも新しいものに変化できる。

・手塚氏

どうにもならない空家→構造がだめなもの。

文化の雰囲気が残るものはよい。

良さ、違いを見つけられるのは東京などから来た人がいいと思う雰囲気で活用。

まちづくりは若者・よそ者・馬鹿者が必要。（手塚氏）

・長岡氏

空家の新しい可能性 一つの資源となり得るのではないか。

外観をきれいに。

空家のデータベース化したものを発信する仕組み必要。

地域のしがらみで開店躊躇する傾向有り。新しい取り組みに対する周囲の人の意識改革必要。

皆でまず街の現状把握すべき 街を歩いて街の点検したうえで取り組むこと。

・国土交通省鈴木氏

権利関係について 国の制度では、相続放棄や所有者判らない物件→固定資産税の納税者から追いかけていけるようにした。

その先については取壊し（行政代執行など） これらは簡単ではない。

市町村でデータベース作る動き→来年度に向けてデータベースに対する予算化狙っている。

・市長

空家率 16%→チャンスの広がりともとらえる。

危険家屋の除去は国の政策の流れで処理。

空家の活用→来年度から空家バンク→データベース化を進める。

不動産業者、弁護士・司法書士・市・町内会と連絡を取りながら取り組む。

空家空き店舗空地はチャンスも広がるとも考えてほしい。

・手塚氏

駐車場取締りをし、道路に駐車できなくなった（都市構造によって考えていくべき）。それを東京では一部駐車出来るところを作り、街が賑わいを復活した例がある。

移動手段の確保が街を賑わわせる一つの鍵ではないか。

空家（空店舗）を取り壊して青空駐車場が増加。← 客増えない。空家を取り壊したらダメ。人が来なくなる。

現状の公共交通のみでは移動できない。まちづくりを公共交通と一緒に作っていかなければならない。

・長岡氏

民間の力が必要、行政のバックアップも必要。

空地の捉え方を変える。小さなスペースを安く貸したら借りたい人が集まってきた。

・手塚氏

空家を大学の夏のイベントで無償で貸すというと、喜んでくる。

・市長

むつ市でサテライトキャンパス {県内 2 大学} で学生に定期的に来てもらう仕組みやっている。学生に来てもらって考えてもらう。リノベーションの核になるのではないか。

参加者からの意見 非常に空家では困っており、すぐに何とかしてほしい、という意見が 2 件。